

2 沿岸漁業重要資源調査（4）アワビ・サザエの資源動向調査

担当：門脇慧史（増殖推進室）

実施期間：平成5年度～（平成27年度予算額：沿岸重要資源調査9,624千円のうち一部）

目的：資源状況の把握を目的に標本船調査，及び市場調査を行った。

（1）標本船調査

目的

アワビの殻長組成，及び放流アワビの混獲率の把握を目的とした。

方法

本調査は平成27年4月から5月，及び7月から平成28年1月までの計9ヶ月間に素潜り漁業者1名（標本船）が漁獲したアワビ，計864個体を用いて行った。殻長の測定はパンチングによって野帳へ記入を行った。放流アワビと天然アワビの判別はグリーンマークの有無によって行った。

結果・成果

本調査で確認したアワビの殻長組成を図1に示した。平均殻長（±標準偏差）は111.3（±8.2）cmと確認された。殻長105cmから109cmの階級で最大個体数190個体が確認された。また，放流アワビの混獲率を図2に示した。放流アワビ338個体，天然アワビ525個体，不明アワビ1個体が確認され，放流アワビの混獲率は39%であった。

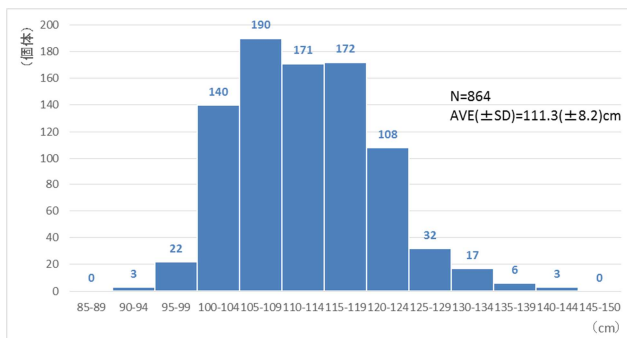


図1 アワビの殻長組成

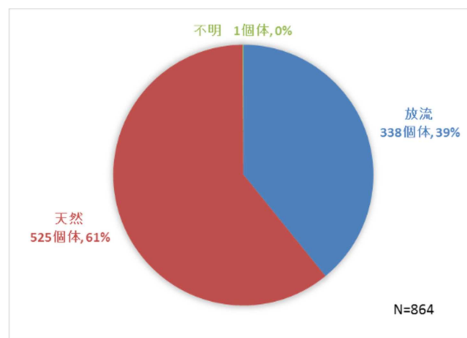


図2 放流アワビの混獲率

課題

アワビ資源調査の精度を向上させるため，他の地区でも同様な調査を行う必要がある。

H27成果 2 沿岸漁業重要資源調査(4) アワビ・サザエの資源動向調査

(2) 市場調査

目的

アワビ、及びサザエの資源状況の把握を目的とした。

方法

本調査は平成27年4月から平成28年2月までの計9回、網代、賀露、福部、酒津、浜村、青谷、淀江のいずれかで水揚げされたアワビの殻長の測定を行った。また、平成27年4月から平成28年2月までの計15回、浦富、網代、賀露、福部、酒津、浜村、青谷、泊、中部、御来屋、淀江のいずれかで水揚げされたサザエの殻高、及び蓋長径の測定を行った。殻長、殻高及び蓋長径の測定はデジタルノギス(スーパーキャリパ CD67-SPM, Mitsutoyo)を用いて行った。

結果・成果

アワビの殻長、及びサザエの殻高、蓋長径のデータの集積を行った。

課題

アワビ、及びサザエの資源状況を把握するため、継続して行う必要がある。